持続可能な社会に向けて、すべての人を幸せにできるものづくりを
――株式会社 YONEDA

無電源自動野菜栽培キット「SoBiC」の開発・製造に携わる

株式会社 YONEDA は 2014 年に東京都大田区羽田に創業し、千葉県市原市に倉庫を、中国の上海に提携企業・上海呈騰貿易有限公司を有する。

主たる事業は、金型製作、金型設計、金型に関するコンサルティング業務及び輸出入業務、金型に関する試作品製作、プラスチック切削、物品卸売業だ。

「一番核となる業務は開発だ。大企業から中小企業、個人の方まで様々なオーダーに対応している」と代表取締役社長の米田 英一氏は語る。

株式会社 YONEDA　代表取締役社長　米田 英一氏

例えば大手 IT 系企業の管理職だったメンバーが脱サラし、2016 年に作ったベンチャー企業のネイチャーダイン株式会社（以下 ND 社）から商社を通じ、開発・製造の委託を請けた無電源自動野菜栽培キット「SoBiC（ソビック）」もそのひとつである。

SoBiC オーガニックプランター

「SoBiC」とは、Solar Pneumatic Bio-Cycle System の略で、電気も機械も使わず、太陽の日射熱で自立稼働するので、陽の当たる場所さえあれば誰でもどこでも簡単に野菜や穀物など様々な作物をほぼ全自動で栽培できる世界初の非常にユニークなシステムだ。

日本全体としての大きな問題である環境問題や食の安全、防災、少子高齢化による福祉負担の増大や経済成長の限界などの深刻な諸問題の解決につながる要素をこの「SoBiC」という製品は多く含んでいる。ND 社は豊かな持続可能社会の創造へのサンプルモデルの構築を目指すことを標榜しているのである。

水とカプセルをセットするだけの「SoBiC」

また、ND 社は本取り組みの起点として、千葉県市川市の障害者就労施設「チャレンジ国分」と提携し、「野菜カプセル」の生産・製品化を委託してその製品を 2017 年 5 月初旬から販売開始している。穀物栽培にも対応した大型大規模栽培用のプロトタイプシステムを同施設内に設置して栽培実証も行なっている。

そしてND社は大阪駅前の再開発エリアにおける「うめきた２期区域暫定利用事業」（B区域：南エリア）の事業者である一般社団法人うめらく（大阪市北区　代表理事　山田摩利子、以下うめらく）と提携した事業展開をしている。

大阪駅北側の貨物駅跡地の約17ヘクタールを再開発する事業が進んでおり、「うめきた2期区域」として、緑豊かな空間を確保するとともに、世界をリードする「ライフデザインイノベーション」の拠点形成に向けたプロジェクトが進められている。その中で、うめらくが提唱する“人と自然の共生「BIOPHILIC DESIGN」”をテーマに、うめきた初で生まれたクラフトビールの材料であるホップの栽培を軸に、食の安全や防災を加味したコミュニティ創りなどで行う地域経済の活性化につながるプロジェクトに、2017年7月から「SoBiC」が導入・設置されている。

米田社長は「ND社は世の中に無い物を作ろうとしていた。だから図面も無く、弊社としてはまさにゼロベースからの開発だった。自分が傾聴することによって、相手の頭の中の青図を少しでも引き出し、創造して絵を描くという作業だった。しかも開発にかけられる期間は半年間。とにかく早く世に出したいというのがND社の希望だった。苦労はしたが、一番得意とする開発の仕事だったので、ワクワクしながら開発から製造まで携わることができた」と振り返る。また、米田氏は「野菜カプセル」の生産・製品化については、障害者就労施設の活用をND社へ提案し、「チャレンジ国分」の提携に繋がったという。

個人客のニーズにもきめ細やかに対応

株式会社YONEDAは、前述のような最先端の製品の開発・製造に携わるだけではなく、個人客のニーズにも対応している。

開発から設計までのプロセス

例えばゴルフのプレイ中に地面に穴をあけてしまうことはままある。プレイヤーは都度、土を補充していかなければならない。ゴルフ上には、カートレーンが十数ホールもある。そこで、「土を入れて持って歩くボトルと同じ大きさのものを作りたい」という個人の方が「作って欲しい」と同社に依頼してきた。通常、金型で作るとゆうに 400 万円近く掛かる製品である。実は個人客でも、自分が本当に欲しいというものにはお金を惜しまない。

そんな個人客には会社に来てもらい、ヒアリングするところから始まる。そこから同社ではデザイン画を作り、次の工程に進むか進まないかを確認し、納得してもらった上で次の工程へ移るという。その後、同社から個人客への課金がスタートする。個人に対する良心的な対応と言えよう（製品開発のプロセスは上図を参照）。

すべての人を幸せにするものづくりをしたい

ところで、現在同社では、金型は中国での提携企業で製作しているという。コストセービングのためには必須条件だ。そのため大企業の競争入札では必ず仕事を獲得できる。提携先の上海の上海呈騰貿易有限公司の人材は約 50 名いる。ただし指揮を執っている日本人は現地におり、同社から出向させたりもしている。YONEDA ブランドとして顧客には提供するためである。尚、検査は 100%日本で行い、保証をつけて出荷する。

また、中国の農林水産省と「SoBiC」については提携の話が進んでおり、現在、実証実験中だという。そのため米田社長も現地に飛んだ。

中国農林水産省の前で

さまざまな製品開発・製造に携わってきた同社だからこそ可能な未来へ向けての展開。

現在、世界規模で SDGs（持続可能な開発目標）への関心が高い。SDGs とは，2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として，2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標だ。

持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを目標に置いている。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本も

積極的に取り組んでいる。

米田社長は最後に「すべての人を幸せにするものづくりをしたい」と結んだ。持続可能な社会、誰一人として取り残さない社会。そのためのものづくりをしていきたいと語る米田社長の言葉に大いに共感する。

文　奥山 睦

【参考資料】

株式会社 YONEDA　http://www.yonekin.jp/

ネイチャーダイン株式会社　https://www.naturedyne.com/

【SoBiC Technology】　https://youtu.be/3mnVYQnPPZg

【SoBiC Business Solution】　https://youtu.be/141QZ6hWYRY